



横浜の
モツタイナイ小松菜が

美味しいカレー
になりました。



調理例

エシカルグリーンカレー

ヨコハマを食べて応援するレトルトカレー 2015年12月1日発売（小売店様向け販売のみ）

学生団体 × 環境NPO = エシカルグリーンカレー

エシカル商品という「場」をつくりたい。
僕達の新たなチャレンジ。

Yokohama Future Labo 事務局長

真間 憲一郎

Yokohama Future Labo (YFL) は「社会課題を身近な自分事として感じられる場づくり」を目的に結成された、横浜国立大学と横浜市立大学の学生で構成される学生団体です。様々な勉強会や体験イベントを企画しています。

僕達大学生にとって大学の講義の内容はしょせん伝聞であり、どこかバーチャルな絵空事のようなものでした。大学まで来てこの有様ではもったいない、僕達には世の中をリアルに感じるための「場」が必要ではないか？ないなら自分達で作ろう！そうしてできたのがYFLです。「場」があれば社会課題が自分事になり、自分事になれば自分が何をすべきか考える事ができ、やがては大勢の行動が変わり社会が変わるかもしれない...そんな期待をしています。

エシカルグリーンカレーは、そんな僕達の「場づくり」の新たなチャレンジです。このカレーは、人と社会課題とが出会う「場」です。カレーを手にとって身近な社会課題を知り、カレーを食べて実感する、そんなカレーです。ひとりでも多くの人にこのカレーを食べていただきたいです。

若者の熱い想いに期待しています

特定非営利活動法人フォーエヴァーグリーン理事長

渡邊 圭

特定非営利活動法人フォーエヴァーグリーンは、地球温暖化問題の解決のために環境教育を行うNPOです。茶道体験を通して環境問題を考えるセミナーや、身近な環境課題をテーマとしたワークショップを主催しています。

私達は横浜に拠点を置く環境NPOとして「規格外小松菜の廃棄問題」に着目していました。横浜市は全国第2位の生産量を誇る小松菜の一大産地で、一大産地であるがゆえにその廃棄量も日本有数です。色が悪い形が悪いといった理由で「規格外」と判断された小松菜は、味も栄養も問題がないのにその全てが廃棄処分されているのです。なんとモッタイナイ！

加工商品化による問題解決を考えていた私達は、真間君達と出会い大きな飛躍を得ました。社会課題について考える機会を提供するメディアとしての環境配慮商品という新たなコンセプトに結実したのです。

真間君をはじめとする素晴らしい若者達が将来世界を変えると信じます。若者の熱い想いに期待しています。

(参考写真)



商品名

エシカルグリーンカレー (小売店様向け販売)

形態

200mlレトルトパック化粧包装袋入り

卸売価格

5,000個納品時 単価〇〇円 (税別、送料別)

賞味期限

製造日より1年間

味の特徴

小松菜をたっぷり使いながらも小松菜の味が主張しすぎないやさしい味付けを実現。お子様から高齢者の方まで幅広く美味しく食べていただける味に仕上げました。

ポイント

地域貢献活動の成果が市場を流通する「目に見えるCSR」を実現する商品です。お取引いただくことで、御社の地域貢献の姿勢をわかりやすく消費者にアピールできます。

エシカルグリーンカレーのお問い合わせは 「NPOフォーエヴァーグリーン」まで

団体概要

名称	特定非営利活動法人フォーエヴァーグリーン
目的	地球温暖化防止活動を行う事を目的として設立。環境教育や自然エネルギーの普及等に取り組み持続可能な社会を築くことに貢献する活動を行う。
理念	社会を美しく、持続可能にするあらゆる可能性に挑戦する
主な事業	環境学習カリキュラム実施/教材制作/環境情報発信/イベント制作/マーケティング調査/CSR企画制作/等

沿革

2001年	設立 自然と触れ合う体験学習/講演会/自然エネルギー普及/農業支援等
2010年	ODA事業で中国の子ども達に椅子と机、CO2測定器などを寄付、環境学習モデル校作りに貢献。
2011年	学童用環境学習教材発行。日米500を超える教育機関へ配布。【温故知新】米国開催。国際交流事業等展開

代表者略歴



渡邊 圭 (理事長)
宝飾デザイナー、ミュージシャン。2014年理事長就任。世界に通用する日本文化を模索する中で、自然と共生する日本の伝統的ライフスタイルに共感し、「和の心」こそが持続可能社会実現のカギとの確信を得る。理論主体の既存の環境学習に異を唱え「感性で考える」をテーマに、次世代リーダーの育成に尽力中。